

令和4年度第2回 埼玉県生涯学習審議会 会議録

1 日時 令和5年1月27日（金）13:00～14:55

2 会場 Zoom開催

3 出席した委員（13人）

生駒 章子委員、柿沼トミ子委員、加藤 文子委員、加藤 美幸委員、
吉良 英敏委員、坂口 緑委員、高澤 守委員、寺田 竹雄委員、
中島 晴美委員、平澤 香委員、平野 正美委員、廣澤 健一委員、
渡辺 美穂委員

4 欠席した委員（7人）

牛山 佳久委員、大西麗衣子委員、大原真理子委員、柿沼 光夫委員、
黒沢 貴子委員、比嘉 里奈委員、四ツ井裕明委員

5 議事の経過

（1）会長の開会宣言

（2）会議の公開・非公開

会長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。

（3）会議録署名委員の指名

会長から渡辺委員と生駒委員が指名された。

（4）議論及び経過

ア 議題

○ 埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について

イ 経過

<p>会長</p>	<p>本日の議事「埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、年末より、委員の皆様からいただいた意見をもとに、資料を修正したので、その箇所について簡単な説明をしていく。</p> <p>資料の説明の前に、年末にも関わらず、また短い期間にも関わらず、委員の方から意見をいただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>また、多くの意見をいただいたが、全ての意見を反映することは難しい部分があったので、御容赦いただきたい。また、文章形式を「である調」から「ですます調」に修正している。それでは変更した点を中心に説明していく。</p> <p>「はじめに」から、第1章まで説明する。</p> <p>昭和45年の高齢化率については、当初は5%と表記していたが、他が小数第1位まで表記しているので5.1%に修正した。</p> <p>また、令和3年の高齢化率であるが、前回は28.9%となっていたのは全国データの数字であった。そのため埼玉県の数値となる27.2%に修正した。また、令和2年の合計特殊出生率1.26を記載していたが、最新値となる令和3年の1.22に修正した。</p> <p>令和3年度の厚生労働省の調べでは、本県の合計特殊出生率は都道府県別で40位なので、『世界に例を見ない急速な「少子高齢化」』から『本県は全国の中でも急速に「少子高齢化」が進んでいる』という表記にした。</p> <p>また、「世界的に流行」は「大流行」と同義なので、世界的大流行の「大」も削除した。</p> <p>また、指針を改定するに当たり「生涯学習推進指針の成果と課題の検証」も必要となるので、その旨追記した。</p> <p>初めは「指針の見直し」という表現にしていたが、「以前からあったものを改めて新しくする」という言葉がふさわしいと感じ「改定」にした。</p>

<p>会長</p>	<p>さらに、「相互に連携」という部分については、委員からの意見を踏まえ、「相互に連携・協働」という表現に修正した。</p> <p>続いて第1章の「指針の見直しの経緯」についても、委員からの意見を踏まえ、一部修正している。</p> <p>まず、「聞き慣れない言葉は、注釈を入れた方がよい」という意見もあったので、「激甚災害」という言葉も注釈に追記した。</p> <p>4ページから5ページにまたがるが、新型コロナやそれに伴うデジタル化というのは、平成25年の時には予期できなかったということを強調するため、「策定時点では予想できなかった変化が生じていて、時代遅れとなっている」と表現を修正した。</p> <p>その下の部分も、令和4年2月に文科省が公表した最新の次期教育振興基本計画の諮問内容に触れた部分である。</p> <p>また、今後の生涯学習の在り方を考えると、どうしても「ウェルビーイング」と「SDGs」は外せないものだと考え、盛り込むと同時に注釈を付け加えた。</p> <p>その続き6ページ下から2行目の部分について、当初は「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」としていたが、「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」と副題も入れ、より正しい表記とした。</p> <p>また、他にも「マルチステージ」「リカレント教育」「リスキリング」などの言葉も、これからの生涯学習には重要ではないかということで追記した。</p> <p>7ページまでが、はじめにから第1章の内容となっているので、そこまで意見をいただきたい。</p> <p>こちらは後世に残る文章なので、丁寧に見ていただいた。</p> <p>今までのところで事務局が見落としそうなところや私たちの目が行き届いてないところなど、何かあったら指摘いただきたい。表現</p>
-----------	---

事務局	<p>や注釈についても意見をお願いしたい。10年ぶりに見直すというのが分かる前書きになっていると良いのではないか。第1章はよろしいか。</p> <p>この部分は、改めて校正がかかるということなので、事務局にはひとまず次の章の説明をお願いします。</p> <p>続いて、第2章に移る。</p> <p>第2章は、過去のデータ分析の内容なので、委員からの修正意見はなかったが、簡単に説明する。11問の令和3年度県政サポーターアンケートの結果である。</p> <p>まず質問1の「この1年くらいの間に生涯学習活動をしたか」という問いに対しては、平成25年の調査と大きく変わらない結果となっている。</p> <p>「趣味に関するもの」や「教養的なもの」は、おそらく生涯学習の分野では、一番ボリュームがあるという点も変わらない。</p> <p>質問2の「この1年くらいの間に行った生涯学習について満足しているか」については、「満足している」が74.3%となっている。平成25年は87%だったので下がっている感じもするが、おそらくオンラインで学ぶことができたり、学びの選択肢が増えたりしたところから、満足する人もいるし、思っていたのと違うということから、満足していない部分もあるのではないかと思う。これも「時代の変化」の部分かと感じている。</p> <p>質問3の「どのような施設や場所を使って生涯学習活動を行ったか」については、平成25年では第11位だった「個人の家」が、第1位となっているところが一番大きな変容である。ちなみに、平成25年で1位だったのは「公民館」であった。その点が、時代の変化だと感じている。</p> <p>質問4の「この1年くらいの間に生涯学習活動をしなかった理由」は、表記の順番を「思わない」「どちらかと言えば思わない」に入れ</p>
-----	---

替え、意味合いが強い方を先に表記した。

また、「生涯学習ステーション」の説明には、URLを併記した。「生涯学習ステーション」の認知度は低いので、もっと認知を広めていくことが、県としての役割だと実感している。そのため、「県民ニーズに応えるための方策」ということで、情報の収集や発信に努めていく旨も表現した。

続いて、「2 本県の生涯学習推進における現状と課題」のうち、「(1) 人口減少・少子高齢化の進展」については、「自然減が社会増を上回ることで人口が減少する」という部分を分かりやすくした。

また、セカンドライフを過ごす上でも、リカレント教育や学び直しが必要だという課題を踏まえて、幅広く生涯学習に努めていく必要があるということを表記している。

「(2) デジタル技術の進展」については、前は「デジタルツール」という表現だったが、「デジタル技術」の方が伝わりやすいので、表現を修正した。

さらに、デジタル技術を活用することによって、デジタル技術の利便性だけでなく、デジタルリテラシーなどの課題も触れる必要があるので注釈を付けた。「デジタルの活用で、この時期だからこそ、メタバースを入れた方がよい」という意見もあったが、そこは時期尚早ということもあり加筆していない。

続いて「(3) 多文化との共生」についても、外国人だけでなく幅広い意味と捉えていることが分かりやすくなるように表現を改めた。今後、外国人人口が増えていくことを考えると、彼らが安心して働き、学び、暮らすことができるようにするという視点が、生涯学習には必要なことなので追記した。

また、「同和問題をはじめとする…」というのも、それ以外にも色々な課題を抱える方々の人権も配慮する表記としている。

以上 21 ページまでが第 2 章なので、意見をいただきたい。

<p>会長</p>	<p>まず8ページの「グランドゴルフ」を「グラウンドゴルフ」に修正してもらいたい。もう一つ、20ページの「デジタルデバイド」であるが、公式文書では「デジタルディバイド」となっていると思う。最終的には埼玉県基準で構わないが確認してほしい。</p> <p>ところで、20ページの「多様な文化・生き方の受容」というのは正しい表現なのか伺いたい。これは本文とあまり関係なく表題になっているものなので、変更は難しいことではないと思う。多数派が前提となる言い方はよくないと思う。「尊重」「多様な生き方」、何と云えばよいか。互いにそれを当然だと認め合う、何という表現がよいか。</p>
<p>委員</p>	<p>一案として「包摂」はどうか。</p>
<p>会長</p>	<p>包摂とは「インクルージョン」である。「社会的包摂」という言葉でも使われている。共生社会は、多くの人が包摂されるという意味もある。ただ、そこに「多文化」がつくと「外国人」の意味になってくる。</p>
<p>委員</p>	<p>2つ質問がある。1点目は、質問3のところだが、1位が「個人の家（自宅でのオンライン学習等を含む）」となっている。これはアンケートを行った時点が（新型コロナが流行した）令和3年度だからこそその数字なのか、それともここ数年こういう傾向なのか。もしそう（コロナ禍だからということ）であれば、「今年度（令和3年度）なので」という注を入れるべきか。</p> <p>もう1点は、「生涯学習ステーション」に関してはURLを載せるということだったが、QRコードの方が簡単ではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>令和3年度は「公民館」も「図書館」も開館していなかった。だから学習するなら「個人の家」しかないという時期だったというのはお見込みのとおりだと思う。対面学習ができないからリモートでも学べ</p>

委員	<p>るオンライン学習は、今後も広がっていくのではないかと思う。注釈が必要であれば、「コロナ禍のため個人の家が多い」など入れることも考えたい。QRコードを入れるという意見はとてもよいと思う。</p> <p>QRコードなら、読み取るだけですぐにアクセスできるので、URLよりもQRコードを貼り付けた方がよい。「生涯学習ステーション」には様々な情報が集まっているので、様々な機会を捉えて周知していくことが望まれる。</p>
委員	<p>質問3の「どのような施設や場所を使って生涯学習活動を行ったか」について、以前は「公民館」が1位だったが、令和3年度は「個人の家」が1位になったという説明があった。コロナ禍だからということが説明として付け加えられたが、コロナ禍だからというのはどこに記載しているのか。</p> <p>また、デジタル技術の急速な進展が考えられると記載してあるが、それもどこに記載してあるのか。3年前と比べて、外へ出られなくなったり公民館に行けなくなったりして、あるいは技術が進歩して、家でも生涯学習活動ができるようになったということだが、今後の生涯学習にとって学習機会を提供する側としての課題は、どのように捉えているのか、それはどこに記載してあるのか。</p> <p>また、準備する側として「今後こういう方向に持っていかなければいけない」や「こういうところを整備する必要がある」といった方向性はどこに記載してあるのか。どの分析から何を導き出して、どう提供していくのかということになるのだと思う。</p>
事務局	<p>やはりデジタル社会だからこそ、その社会の変化に対応していけないといけないということについては、第3章以降で記載している。</p> <p>また、「それぞれの役割」や「できること」「できないこと」があると思うが、今後はデジタル社会が更に広がってくると思う。ニーズ</p>

	<p>が高まるオンライン学習などの効果を更に向上させるために、DXの推進やICTの積極的な活用に取り組むなどが求められてくる。</p> <p>デジタル技術が今後進展していくので、デジタル技術を活用して、全県民が馴染めるようにしていく社会づくりというのも、生涯学習推進指針に織り込んでいく必要があると認識している。その点は、第3章以降に示している。</p> <p>20～21 ページの部分だが、「本県の日本人人口の減少」という表現が気になった。「県内の人口減少」ということだけで意味が通じるし、あえて日本人、外国人とするのは、何か課題解決の方向性にアプローチする表現の仕方としては相応しくないと思う。</p> <p>どういうゴールを目指すのか考えた時に、「日本の人」「外国から来た人」と分けるのはどうなのか。もう1つは、いずれそういう社会、つまり日本人も外国から来た人も、県内に一緒に住む人たちというふうに考えられるようにたどり着くのがゴールなのか。</p> <p>例えば、インクルーシブな学びの場と語られる子供たちのことで語られる時も、インクルージョン、インテグレーションと言うのか。「日本人と外国人は別々と認識した上で一緒にいること」と「日本人と外国人は別々と認識しない、別の子、違いを認識しないということ」は、ゴールの地点とすると違う。多様性の文化についても、「あの人たちとは違うが、理解し合う」ということではない。そこをうまく表現しないと、誤解を抱かせてしまう。</p>
委員	
事務局	<p>自分たちもこのあたりの表記に色々迷った部分もあったので、意見も参考に見直していきたい。</p>
会長	<p>非常に重要な指摘である。その部分を私も気にしているので、最後に責任を持ってチェックさせていただく。「一緒に社会を作っていく担い手」というのを、審議会で何度も話し合ってきたことで、きちん</p>

委員	<p>と伝わるような言葉にすべきである。元々いる人の特権のような感じにならないようにしたいと、改めて思う。</p> <p>この（３）の「多様な文化・生き方の受容」が非常に気になっていた。「受容」というと受け入れる感じがするので、「平らな」「横の連携」という感覚がどうも取れない。</p> <p>また、21 ページの「本県では外国人だけではなく、あらゆる人に」という部分であるが、外国人だけではなく、「あらゆる人に」という並びが気になった。</p> <p>それから、課題の部分であるが、「日本人人口が減少し、外国人人口が増加」となっている次のところで、「また日本人と外国人が」と記述されている。「多文化」というか、「どこの国の人でも一緒に地域の構成員として地域を作っていく」のだという意気込みが課題の中には全然感じられない。地域づくりは、これまでその地域に住んできた日本人が核になって受け入れていることは事実だとしても、これからの生き方は、もう少しアメーバのような横広がりではないか。</p> <p>また、同和問題や男女共同参画、性的マイノリティなどの言葉が並んでいるが、ここの表記はもう少し練った方がよい。</p>
委員	<p>現状と課題について、「（１）人口減少・少子高齢化の進展」「（２）デジタル技術の進展」「（３）多様な文化・生き方の受容」という並びになっているが、（３）に違和感がある。（１）で人口のことに触れているのに、（３）でも人口のことをまた述べている。ここは「グローバル社会の進展」にして、人の数に注目しないで、「あらゆる人の関係」とざっくり書くようなことにした方がよい。</p>
会長	<p>おっしゃるとおりである。後でもう一度戻って議論するという手順ができればと思うが、事務局としてどうか。</p>

事務局	<p>第3章に触れた後、また時間があればここに戻ることもできる。あとは時間がタイトな際には、最終的に事務局と会長とやりとりさせていただいた上で決めていく可能性もある。</p>
会長	<p>第2章については何か意見はあるか。</p>
委員	<p>話を聞いていて、今の「多様な文化・生き方の受容」の中身はこれでよいのか。ここに「男女共同参画の推進」などを入れるのは疑問なので、引き続き審議をしたい。このタイトル部分の案だが、例えば、「多様な文化、生き方の相互理解の推進」のようなのもよいのではないか。</p>
会長	<p>「相互理解の推進」というニュアンスの言葉を、タイトルと本文の両方で使えるとよい。</p>
委員	<p>今の意見について、本当に賛同する。</p> <p>「(2) デジタル技術の進展」について、課題についても書かれている。基本的にデジタル技術は良いものということが前提とした上での「デジタルデバイド」「デジタルリテラシー」ということだが、「負の側面」があるということも、どこかに課題として入れておいた方がよい。デジタルの暴力などは、男女参画だけではなく、子供たちに非常に影響があると思う。課題の部分にそれらを入れることができればよい。</p>
会長	<p>デジタル技術自体が持つ「負の側面」は、ログがずっと残ることや匿名性が高くなることなどが挙げられる。スマートフォンばかり使うということがここに入ると、また文脈が変わると思う。「対面だ」「必要だ」などをここで書くと内容とずれてしまう。バランスを取りながら、文章を書くということが求められる。</p>

事務局	<p>では、第3章に進む。事務局から説明をお願いする。</p> <p>第3章の始めに「人生100年時代」、「Society5.0」、「DX」など、平成25年から社会が大きく変容していることを強調するようにした。</p> <p>「県に求められる役割」については、上記の箇所については、より詳しく言葉を整えた感じである。</p> <p>「ウ 連携ネットワークの構築」については、ネットワークをより具体的に、分かりやすい言い回しに修正した。</p> <p>「エ 市町村への支援」についても、イベント等の事業に携わる専門職が何であるかということが分かるように、「専門職（社会教育主事など）」と追記した。</p> <p>また、『これまで社会教育主事との「関わりがなかった」』という表現だったが、全く関わりがなかったとは断言できないので、「薄かった」という表現にするとともに、「参画する」を「参画につなげる」という表現にした。</p> <p>さらに、「多世代」という言葉の範囲が分かるように、「子供から高齢者まで」とすることで、幅広い年齢層であることを具体的に表した。</p> <p>加えて、「ロードマップづくり」という言葉を前回の会議で委員から意見をいただいていたので、「県内事業のロードマップを作って、一人一人の学習活動に資するためにも」として、その言葉を生かす表現にした。</p> <p>続いて「（2）市町村に求められる役割」としては、「関係機関との連携」、「ICTの利用」、「困難な立場に置かれている人向けの学習機会」、「障害のある方や外国籍の方などを対象にした生涯学習の提供」などが必要と考えた。</p> <p>続いて「イ 地域活動を支える人材の育成」については、小中学校対象の「総合的な学習の時間」だけでなく、高等学校対象の「総合的</p>
-----	--

	<p>な探究の時間」も追記した。</p> <p>また、「(3) 社会教育施設に求められる役割」のうち、「イ 図書館の役割」や「ウ 博物館の役割」については、図書館司書や所管課の意見を踏まえた修正を行っている。</p> <p>委員の意見に、図書館も博物館も公的機関なので、「安心安全な施設で」という表現を加えた方がよいというものがあった。確かに図書館や博物館が安心安全であるのは望ましく、当然のことでもあるが、あえて表記する必要性は乏しいと感じ、割愛した。</p> <p>「エ 青少年教育施設」だが、当課で管轄しているげんきプラザの特色は「自然体験」である。げんきプラザには、現地での自然体験プログラムもあれば出張体験（出前授業）もある。その点も青少年教育施設の「強み」なので、そのように表現した。また、「実践プログラムの更なる整備」を「実践プログラムの更なる改良」に改めた。</p> <p>「(4) 社会教育団体や企業に求められる役割」のうち、「ア 社会教育関係団体の役割」についても、「高齢化が進んでいって」や「後継者不足」などのネガティブな表現については削除した。「イ 地域人材の役割」に記載されている「学校応援団」は、埼玉県独自の名称なので、注釈に「埼玉県教育委員会の独自の名称」ということを表記した。</p> <p>「ウ 企業やNPOの役割」については、それ以外にも一般社団法人や社会福祉法人など様々な法人があるので、「ウ 企業やNPO等の役割」に改めた。企業の地域貢献活動による様々なメリットがあるが、その書きぶりについては分かりやすい表現とした。</p> <p>説明については、一度ここで区切りたいと思う。</p> <p>全ての委員の意見は反映していないということではあるが、表現が適切かどうかという意見もいただきたい。</p> <p>先ほどデジタルツールの進展により、「集まる」より「オンライ</p>
会長	
委員	

事務局	<p>ン」によるものが一番多くなったという話があった。例えば「公民館の役割」で、今までも文化祭や発表会などはたくさんやってきた。その部分は記載されているが、公民館がデジタル発信元の拠点としての役割を求める必要はないか。</p> <p>つまり、公民館や図書館の役割として、人が集まって発表することは以前からやってきているものだから、公民館や図書館についての役割がもう一步進んで、自宅からでも学びが受けられるという仕組みの発信元とすることはできないのか。</p> <p>ここに書いてあるのは今までの取組と変わらない。「発表の場」や「読み聞かせ」が大切なのも分かるが、公民館に来られない人も、会社にいる人も（みんな）受け入れてもらえるような発信元にはならないか。</p> <p>全国には、デジタル発信をしている公民館があり、例えばさいたま市内では「e-公民館」で、公民館の講座や折り紙講座や生け花などをYouTube 配信のような形で、その公民館のホームページから発信しているところもある。</p> <p>公民館が老朽化したり、Wi-Fi の設置ができていない現状もあり、そこまで公民館に求めるのが難しい部分もある。そのため、「公民館の役割」のところに、「デジタル普及の発信元」という表現を入れることは難しい部分ではある。</p>
会長	<p>24 ページの「市町村の役割」かもしれないが、「関係機関との連携」「ICTの利用により」というあたりで、むしろ市町村に求めているということになるのではないか。</p>
委員	<p>もちろん、63 市町村もあるというのはよく分かるが、項目が「求められる役割」となっている以上は、そういうことも求められていると書かない限り、市町村は善処しない。「市町村に求められる役割」に</p>

<p>会長</p>	<p>「人材の育成」が出てくるが、「設備と人の両方が整わないとダメ」や「一番遅れているのが公民館」ということではなく、「社会的役割が求められている」くらいは明示した方がよい。指針が（県の生涯学習の）大元の教科書になるのだから、市町村の現状に合わせていたら、全く歯車が回らないではないか。</p> <p>「うちの市町村ではまだ無理」という自治体があるのは分かるが、現状に県が合わせていたらダメではないか。現状に対して思いやりがあるのはよいが、県が時代を回していく役割も持ってもらいたい。</p> <p>今後 10 年先に向けての、今回の改定なのでおっしゃるとおりである。図書館にも博物館に求められる役割にも「デジタル化」を入れるべきである。</p>
<p>委員</p>	<p>今のお話、本当にもっともである。先どんなことがあるのかを見通して、ある程度のことを織り込んでいくことで、各団体、各地域が目標として頑張っていくと思う。指針の一つとして入れていくことが必要だと感じた。</p> <p>一つの例だが、上尾市では1年生を迎える保護者を対象として、子育てアドバイザー講座をやるのだが、リアルに集まっていたく方と、幼い子がいるので、どうしても対面で参加できない方たちに門戸を広げるために、デジタル配信をするということも、初めてトライしようとしている。</p> <p>細々ではあるが、1か所がやっっていけば設備は徐々に整っていくと思うので、そういうことが可能ではないか。小さな言葉を意識していくことが大事かと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>22 ページの一番上、「本県が目指す生涯学習社会」のところの表現だが、「人生 100 年時代」と「Society5.0」、「DXの急速な進展」とあるが、「Society5.0」と「DX」は重なる部分があるのではない</p>

	<p>か。それと、「人生 100 年時代」は個人の話で、「Society5.0」は時代の変化の技術の話。もう一つは「DX」ではなく、先ほどのグローバル化や共生社会の話もあったので、例えば「SDGsの推進」や、一人一人もしっかり学んでいかなければいけないと思うので、そういうものに変えた方がよいのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>とてもよい意見である。DXはやはり技術にとっても、本当に課題意識があるので、それは委員の指摘にもあるように、とても課題意識を持っているのだと思う。同時にグローバル化が入った方がよい。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの話にまた戻ってしまうが、「公民館の役割」において、オンラインやICT化というのをここに入れた方がよいという議論があったが、それはどうなのか。公民館の役割は、学校との連携の強化や、地域と学校をつなげていくコミュニティのようなどころだと思う。オンラインの手法など、それをどういう方法でやっていくのかという方法論になっていくので、そこを入れてしまうと、役割とは違う枝葉の方に議論が向かってしまう気もする。</p> <p>反対に、ICT化という文言がないことで、公民館が様々な手段を用いることができるのではないか。どんどんオンライン化してもよいし、市町村や学校がそういったものを入れれば、そこから公民館が繋がって、ICT化、オンラインを導入するとかいうことになると思うので、役割の部分では、オンラインやICT化という単語を別に入れてなくてもよいのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど「本県の目指す生涯学習」というところで、同じような内容が重なる話があったが、実にそう思う。SDGsもあるが、それを全部まとめてこそ、もっと大きく人類が次の世代、次の目標とするウェルビーイングであるというように言われているので、そこにウェルビーイングという言葉が入ってくるのではないか。</p>

<p>会長</p>	<p>2020年代のキーワードになっているので、これも入れた方がよい。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどから公民館の話が出ているが、やはりここで話をしていくという時に、「公民館の役割」というのはかなり中心的な位置であり、生涯学習の従来の考え方でもあり、これからのやり方になってくると思う。</p> <p>やはり一般の市民にとって、学校は、子供がいる方にとって近い存在だが、高齢者や子供がいない方が学校を使うとなると難しい。県民全般にとって近いという意味では、やはり公民館とのつながりを強くした方がよいので、公民館にデジタルは要らないのではないかという今の話は、むしろ逆だと思う。</p> <p>公民館が「安心できる、そこに行けば使える」ということになれば、災害の時でも公民館の役割は大きいので、公民館がデジタルをきちんと持っているということを、将来的な目標として掲げることが大切である。市役所だけが持っていればよいとか、行政のどこかが持っていればよいというのではなく、地域全般で安心して使えるということにつながっていくのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、公民館ではデジタルデバイドの研修会など、講習会をやっている。図書館では蔵書検索はもう電子化されているし、博物館では、博物館に行かなくても展示品などがデジタルでも見られるようになっているところもある。そういったことを記載し、まずは、できる範囲で Wi-Fi の整備から入って、デジタルにも対応できる社会教育施設ということを、公民館、図書館、博物館、社会教育施設にも、それぞれ書いた方がよい。</p> <p>また、社会教育施設は居場所というか、誰でもいつでも、ふらっと行って、そこで時間を過ごせるというか、もっと求めている学びなども入れるとよい。</p>

<p>会長</p>	<p>全体として内容を少し厚くしては、ということでもあるのかと思った。特に公民館については、より具体的に書いてもよいかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>3点ほどある。1点目は、先ほどから出たように社会教育施設のWi-Fiの問題は、ぜひ県としても補助金を出すなどして推進していただきたい。</p> <p>やはり海外から来た人から一番よく聞かれるのは、「Wi-Fiは使えるか」というところである。いわゆる公共施設であれば利用可能だと言いたい。</p> <p>2点目は、県に求められる役割の中の「市町村への支援」という中で、「専門職（社会教育主事など）」があるが、社会教育主事、社会教育士はほとんど知られていないのではないか。「社会教育の役割は重要」ということであれば、何で重要なのが分かるような形にするか、社会教育士の役割について、どこかで図でも入れたりすることによって、連携などが見えてきたりするのではないか。</p> <p>3点目は、名称が公民館とあるが、最近は公民館がコミュニティセンターという形に変わっている。役割はほとんど同じだが、やはりコミュニティセンターを、どこかに加筆したらよいと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>最後の3点目についてだが、ここに出てくる公民館は、あくまでも社会教育法上にある公民館のことを示しているので、「公民館の役割」と「コミュニティセンターの役割」と二つ書いた方がよろしいということか。</p>
<p>会長</p>	<p>名称が変わっているが、ほぼ同じような内容になっているのではないかという声もあるので、公民館とコミュニティセンターの違いが分かるようにしてあればよいのでは。注釈で「ここでいう公民館は、コ</p>

	<p>コミュニティセンターを除く」ということであればよいと思う。社会教育施設としての公民館に求められることが、地域の核となるような居場所といったあたりで、コミュニティセンターあるいは他の公共施設も、この章に入れるのか、それとも全体のどこかに関連の表現があった時に入れた方がよいのか、はっきり分けたほうがよいと思う。</p> <p>つまり、「役割」「支援」というあたりの対象施設に合致しないのであれば、コミュニティセンターについては別の部分で明記した方がよいかもしれない。コミュニティセンターと公民館が、埼玉県では別のものと整理されている。</p>
委員	<p>今の質問だが、コミュニティセンターも生涯学習推進課の管轄か。</p>
事務局	<p>以前公民館だった施設が、現在では「〇〇センター」や「〇〇プラザ」と名前が変わっているところもたくさんある。ただ「公民館」は、あくまで社会教育法上の公民館として捉えているので、そうすると教育委員会が所管するところが多い。</p> <p>コミュニティセンターというと、市長部局、市民課や自治振興課などが所管するところが多いので、公民館とは違うものであるが、いわゆる公民館的な機能は持ちつつ、地域づくりに特化したようなつくりになっているコミュニティセンターもあるので、似た要素はある。</p>
会長	<p>教科書的には「社会教育の機能を持つか持たないか」ということ、住民の自治か、社会教育かというあたりで、区分けされている。でも住民からすると同じだが。</p>
委員	<p>今の件だが、やはり社会教育施設ではないところで「まちづくり」をやっているところもあるので、公民館ではない施設（コミュニティセンターや児童館）の人が見て、「うちには関係ない」と思われても困る。例えば（４）の「どこにもはまらないような団体や企業などに</p>

会長	<p>求められる役割」というのがまとめてあるので、そこに「社会教育施設以外の施設機関」のように加筆するのがよい。</p> <p>「ウ 企業やNPO等の役割」の次に、数行だとしても、コミュニティセンターの記述があってもよいかもしれない。</p>
委員	<p>先ほど社会教育士の話が出たが、社会教育士とは何かというと、ここにいる審議会委員でも多分知らない人が多いと思う。私も最近それについて告示が出ているのを見て、私も資格を取っておいた方がよいのではないかと思い、問合せをしたばかりである。公務員以外の人でも、地域で活躍できる新しい資格なので、それについては、きちんと知らせていく部分があった方がよい。</p>
会長	<p>ここでは、丁寧な注釈を付けるべきである。社会教育士は2020年度から始まったものである。社会教育主事は、教育委員会事務局のみに発令されるという限定された職務であるのに対し、社会教育士は、広く開かれている流行的な資格である。では第3章の後半に入る。</p>
事務局	<p>「2 新たな指針の方向性」である。</p> <p>文部科学省でも、『「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を推進する生涯学習』ということを示していたので、そこに「社会」という言葉も追加した。併せて、「人づくりを支える」「つながりづくりを支える」「地域づくりを支える」という三つの新たな指針の柱ということにし、表記内容は前回と同様であるが、文末の表現を少し変えた。</p> <p>本県が目指す生涯学習社会の概念図ということで、『「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を推進する生涯学習社会』とし、1～3の柱は同じだが、方策を入れ替えた。現行指針の方策が、柱1は四つ、柱2が二つ、柱3から二つとなっていてバランスが悪かった</p>

ので、それぞれを三つずつの方策とした。

柱1「人づくりを支える」、「ア 学びへのチャレンジを支援」ということで、すべての県民が、自分に適した学びができるよう、ホームページ等を活用した生涯学習情報の発信を充実・強化ということをやっている。具体的には、「生涯学習ステーション」の見直しや、また各市町村では、公民館ホームページなどでの情報発信が求められてくる部分だと考える。

「イ 多様な学びの環境づくり」については、ウィズコロナ時代において、ニーズが高まるリモート学習やオンライン学習などの効果を更に向上させるため、言葉をつけ足した。ここではオンライン講座などが該当すると考えている。

続いて「デジタル社会に対応できる人づくり」だが、以前の表記が「デジタルデバイド」なので、その解消に向けた学びということを推進するということである。

続いて柱2「つながりづくりを支える」では、従前は「ア 仲間と交流する機会の提供」としていたが、「ア 仲間づくりの機会の提供」と改めた。

「イ 国籍や世代を超えた交流機会の創出」では、SDGsの理念でもある「持続的な、誰一人取り残さない」という言葉をもとに、生涯学習社会の実現に向けた多様な人々が安心して学べる場ということを記載した。

「ウ 充実した時間が繋がる（継続する）人生の実現」では、様々な段階において、それぞれのウェルビーイングが実現できるよう、例えば小学校段階だったら放課後子供教室や博物館など社会教育施設の宿泊体験事業などの学び、結婚、子育てに関するところなど、それぞれのライフステージにおいて様々な学びの場がある。それぞれの場面で学びを通して、それこそウェルビーイング、自分たちの生き方がより良くなるよう、就職、再就職、学び直すとキャリアアップができるということである。

	<p>続いて柱3「地域づくりを支える」については、「ア 学んだ成果を生かす機会の提供」について、内容はこれまでの指針と同じだが、学んだことが生かせる場が提供できるような流れが必要だと考える。</p> <p>「イ 地域課題の解決」だが、地域によって抱えている課題は様々である。例えば防災についての講座が必要な地域や、外国籍が多い地域であっても、中国籍が多いのかベトナム籍が多いのか、ブラジル籍なのかによって地域の課題が異なる。地域の課題、弱点になるような部分が解消できるような学びの機会を充実するという事で加筆した。</p> <p>続いて「ウ 地域で活躍する人材の育成」だが、施設職員、公民館職員、図書館司書なども、学びを通して、人材の資質向上へ高めていきたいと考えている。</p> <p>32 ページについては、特に加筆したところはない。持続可能で包摂的な社会が実現されるように、取り組む旨の表現で、指針を整えた。これが本当に新たな方向性の具体的な部分になるので、審議会でブラッシュアップしていきたい。</p>
会長	<p>概念図はいかがか。こちらはどうしても少し時間を意識して書かれたものということもあって、非常に抽象的な言葉が並ぶものになってしまうが、方向性としてこれで間違いはないか。『「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を推進する生涯学習社会』は、国が出している方向と一致しているものである。内容を御確認いただきたい。</p>
委員	<p>31 ページにある、柱3「地域づくりを支える」の「イ 地域課題の解決」で、「寄与する」と記載してしまうと、学習としての本質や自発的な学びが失われて、自発的な学びの機会というニュアンスを取ってしまうような気がする。「寄与する」よりも「生かせる」もしくは「地域の課題」を「発生するような学びの機会」にしたらどうか。</p> <p>防災も「防災に生かす」と「防災から学ぶ」ではニュアンスが異な</p>

	<p>るので、主体的な活動を県民一人一人が行えるようにするという、言葉選びはした方がよい。</p> <p>それと30ページの「人づくりを支える」という話の「ウイズコロナ時代において」だが、この言葉を今後も使い続けるのは厳しい。検討した方がよい。</p>
会長	<p>なるほど。私も「ウイズコロナ」が気になっていた。「現代社会に欠かせない」などにしておいた方が無難かと思う。31ページ、先ほどの「イ 地域課題の解決」で、本文が「それぞれの地域が抱える課題の解消」となっている。わざわざ解消としているが、解消は自然消滅を願う言葉である。「課題の解決」や「地域づくりに生かせる」とするのであれば、やはり「解決」でよいのではないか。</p>
委員	<p>31ページの(2)「イ 国籍や世代を越えた交流機会の創出」である。「持続可能で誰一人も取り残さない」ということでいうと、例えば「障害の有無」、ジェンダーは違うかもしれないが、国籍と世代だけのような印象があるので、障害の有無なども入れた方がよいのではないか。</p>
会長	<p>確かに、この見出しと合っていないかもしれない。</p>
委員	<p>大きな柱が三つあり、それぞれ大切でよいと思う。</p> <p>しかし、柱2「つながりづくり」のうち「イ 国籍や世代を越えた交流機会の創出」の中にSDGsが納まってしまっている。SDGsはもっと世界規模で様々な課題解決のために行われるので、ここに落とし込んでしまうのはもったいない気がした。ウェルビーイングも同じで、ウェルビーイングは更にSDGsよりもっと広い概念で、地域づくりや人づくりなど全てに関わってくる。学び直しやキャリアアップなど人生のキャリアに関する部分でウェルビーイングを落とし込ん</p>

<p>会長</p>	<p>でしまうのはもったいない。柱三本すべてにSDGsもウェルビーイングもかかってくるので、言葉や解釈の仕方を広げた方がよいと感じた。三つの柱はそれでよいと思っていた。</p>
<p>委員</p>	<p>32 ページの締めくくりの文章に「SDGs」「ウェルビーイング」というキーワードを入れていく方が適切なのかもしれない。</p>
<p>会長</p>	<p>総論でまとめていく方がよいような気がする。</p>
<p>委員</p>	<p>指摘された部分については、「SDGsの理念である」という言葉がなくても「誰一人取り残さない」というところにはつながるし、ウの「それぞれのウェルビーイング」については、単になくすわけにはいかないので工夫が必要である。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほど意見があったように、「誰一人取り残さない」という意味の中には、国籍世代だけでなく体の不自由な人だけでなく本当に全部ある。本当に全てが含まれているので、それが伝わるとよいと思う。こうやって1個ずつ書くだけでも、それが差別となってしまうような気がする。</p>
<p>委員</p>	<p>「イ 国籍や世代を越えた交流機会の創出」が「誰一人取り残さない」という見出しになってもよい。「しんどい状況にある人全員」ということでもある。それは、普段は元気であっても、いつでも誰もがしんどい状況になり得るというか。「属性ではなくて状態だ」とよく言われるが、そういうことか。事務局は「この概念図はこれで大丈夫か」ということを心配していた。好意的な意見も多いが、まだ改善の余地がある。</p>
<p>委員</p>	<p>学習機会の充実を図るということは、学習機会を提供する側になる</p>

	<p>と思う。その場合、地域づくりに「寄与した」というよりは、「寄与できる」の方が適切だと思う。</p> <p>また、「ウ 地域で活躍する人材の育成」のところだが、社会教育主事と社会教育士だけではなく、同じ文中の指導者や地域貢献できるような人材の育成というのは、また別の人（社会教育主事や社会教育士以外）も包括できると思うので、「職員研修など」ではなく「職員研修を始め」の方が、幅が広がると思った。</p>
委員	<p>この部分は「新たな指針の方向性」ということで、三つの柱のもとに、方策の実現に努めながら取り組んでいくことになる。文末を見ると、「ICTの積極的な活用に取り組む」とか「取り組む」が入っている部分があるが、「活用する」と言い切った方がよい。また、「支援する」は、市町村や個人がすることを助けていくということを意味していると思う。表現としては「支援する」でよいと思うが、これを書いたのなら、「例えばこういう事業をやって、これを実現していくのだ」ということを、県で想定してもらって、記載していかないといけないのでは。</p> <p>結局、10年経って何もなかったということにならないように考えていかなければならない。</p>
会長	<p>そして、評価も少し見据えて書かなければいけないと思う。</p>
委員	<p>柱はよいが、まず、柱1「人づくりを支える」のうち、「イ 多様な学びの環境づくり」の中身がオンラインやデジタルのことである。次のウも「デジタル社会に対応できる人づくり」になっているので、「多様な学びの環境づくり」には、違ったことが挙げられるのであれば検討してもよいのではと思った。</p> <p>また、柱2「つながりづくりを支える」のうちウであるが、「充実した時間がつながる（継続する）人生の実現」というのが、とても大</p>

	<p>事だと思う。</p> <p>一方、「つながりづくりを支える」という時のイメージが、仲間づくりや様々な交流機会の創出というのだと分かりやすいのだが、ここでは、個人のライフステージごとに色々な形でつながるといふことであるが、ここに入れるのは違和感がある。</p> <p>柱3「ウ 地域で活躍する人材の育成」は、「ウ 地域づくりを支える人材の育成」ではないかと思った。</p>
会長	<p>県とすると、柱1のイとウは両方やりたいということであると思う。どうすればよいか考える必要がある。2点目の意見は、もう少し「地域づくりを支える」という柱の言葉を使ってもよいかもしい。</p>
委員	<p>SDGsやウェルビーイングという言葉が多く出てくるが、私も両方ともとても大事だと思うし、内容にも賛同している。ここにいる方たちは専門の方だが、一般の人たちと話をした時に、「SDGs」という言葉はそんなに浸透していないと思う。普通に一般で考えた時に、とても大事な概念だが、まとめとしてSDGsでウェルビーイングを目指すようだと、一般の人が敷居を高く感じてしまうのではないかと感じるおそれがある。そういう懸念があるということも最後にお伝えしたい。</p> <p>私も現場ということ考えた時に、カタカナが多いのは抵抗がある。「デジタルリテラシー」など、注釈を付けると使える用語はあるが、メタバースなど本当に最近すぎる言葉は抵抗もあるし、結局それが浸透していかない理由になってしまうのは、非常に問題だと感じる。色々な解釈がまだ幅広い用語に関しては、非常に気を付けなければいけないと感じた。</p> <p>また、繰り返し出てくる言葉は気を付けなければいけない。先ほど</p>

委員	<p>「受容」や「インクルージョン」といった話もあったが、最近使われている言葉を安易に使ってしまうと、一見届いているようで届きにくい印象も受ける。バランスよく意識しながら、最後にまとめていただくのがよい。</p> <p>同じ意見の方がいたが、私もURLを打ち込んで検索することはないと思う。まさにデジタルの話だと思うが、私たちが率先して、皆さんに分かりやすく検索してもらうためには、どういう方法がよいのか。例えばQRコードの方がよいのではないかという意見はもっともだと思う。私どもの発信から、まずは、分かりやすくデジタル化してできるところはしていくということが大事かと思った。</p> <p>日本語の問題と思うが、全体的に、「この文章の主語は何だろう」と思う箇所がとても多くて、戸惑うことが多かった。なるべく主語が分かりやすい形で文章を作っていたきたい。</p> <p>21 ページの部分は何となく上から目線で言っているような日本語がとても多い印象があり、そういうところを「みんなで考えていこう」とするような表現になると、よりよいと感じた。</p>
会長	<p>主語は本当に難しい。県や私たちなど、この時代に生きる人みんななど、それが隠されている。それが一番、文書が届きにくくなる原因だということも改めて思った。</p>
事務局	<p>以降については、会長からいただいた「終わりに」の言葉や添付資料なので、それ以降の説明は割愛したい。</p>
会長	<p>ではこれで、方向性の案に関する審議をいただいたということになったが、よろしいか。こちらで、一旦この議事を閉じることとする。埼玉県生涯学習推進指針の方向性について様々な意見と貴重な提案をいただき本当に感謝申し上げます。いただいた意見をもとに、会長の私</p>

事務局	<p>と事務局で修正案を諮り、答申を仕上げるところまで責任を持って進めていく。</p> <p>では、「2その他について」何か事務局からあるか。</p> <p>こちらとしては、いただいた意見を再度検討させていただきながら、最終的に議長と調整し、形を整えてまいりたい。答申が完成次第、送付させていただきたいと思っている。</p>
会長	<p>この進め方に関して何か御質問はないか。よろしいか。</p> <p>それでは本日の議事は以上となる。会議の進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>委員の皆様からは、貴重な意見を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>では以上で、令和4年度第2回埼玉県生涯学習審議会を終了とする。</p>